

バラの栽培と育種を楽しむ

吉池 貞藏

この度の震災にあたっては、岩手県在住ということで、遠方からお手紙やお電話をいただき大変恐縮しておりますが、私の所は県中央の内陸部ですので、津波の被害もなく、地震も物が落ちる程度で済みましたのでご安心ください。

本来ならば、県内の花き生産者の被災状況と今後の対策等についてお知らせすべきところですが、十分な資料も持ちあわせておりませんので、今回はこれまで趣味で手がけてきたバラについてふれてみたいと思います。

1. バラとの出会い

学生時代に園芸学部 に在籍していたおかげで、創立当時の日本ばら会展をはじめ、園芸関係のアルバイト等も体験でき、大変恵まれた環境にあったと思っています。この中で、バラをつくる動機を与えてくれたのもその1つである。

大学3年の春、日本橋三越の園芸部でアルバイトを探しているという情報を得たので、これに参加することにした。昭和28(1953)年頃なのでまだ食糧も十分ない時であったが、ここの売店ではもうすでにバラ苗を販売していた。1株200～300円程度と思ったが、1株買って信州の自宅の庭に植えた。品種は今でも記憶しているが、‘マダムメリーキュウリ’という黄色のバラであった。夏に帰省した折にその咲いている姿に驚いた。

アルバイトが縁でバラ苗を納入している業者の方とも知り合うことができた。私が長野県の生まれということから、夏休みに野ばらの株を掘ってくれないかとの話が出た(当時はまだ現在のように実生から台木をつくって接ぐのではなく、山野に自生している野ばらを掘り取って接ぎ木する状況であった)。それではやってみようと思うことで、この年の夏は、野ばらの株掘りをした。約3,000株は掘ったと記憶している。おかげ

で野ばらはどんなところに自生しているのか、どんな場所に自生している株が台木に利用できるかがよくわかった。

せっかく野ばらを通して業者さんと知り合ったので、この機会に是非接ぎ木を教わろうとお願いしたところ、快く引き受けてくださり、実習することができた。夏だったが、帰宅して接いでみると、予想以上の活着と生育の早さに驚いた。

在学4年の時は、松戸の農家の空き地の一部を借り、接ぎ木したバラを育てた。奇妙に今でもその当時の品種は鮮明に記憶に残っている。

昭和31(1956)年春に盛岡にあった農業高校に勤務することになり、赴任した。農業高校では主に花の教科を担当したので、早く、地元で産業となる花を育てたいとの思いが中心で、趣味のバラにはあまり心は動かなかった。しかし当時盛岡にも岩手バラ会は発足していたので、早速その会に入会したが、特別な活動はしなかった。しかし熱心な栽培家中村七三氏と出会い、栽培状況を見せていただいたり話を聞くことができたのは大きな収穫であった(氏は1946年アメリカオレゴン州ポートランドの国際ローズショウで日本で初めてグランプリを受賞している)。

2. 趣味のバラ栽培

私が趣味のバラ作りをこちらで始めようと思った動機は、昭和45(1970)年10月の岩手国体である。10月上旬は岩手では秋バラの最も美しく咲く時期である。この時期に是非、全国の来県者に岩手のバラの美しさを紹介しようと思うことで岩手バラ会は張り切ってバラ作りに挑戦した。私も農業高校から、県の園芸試験場に移り、小さな住居と庭を確保できたので、早速これに挑戦してみることにした。こうなると、夜遅く帰ってきて、必ず懐中電灯でバラを見てから休むほどだった。

このためか、昭和 44（1946）年秋の岩手バラ会の展示会では初出品（新人の部）で3日間連続1位の賞をいただいた。これが熱病となり、数年間続いたが、その後の転勤等からバラはしばらく遠のいた。

平成 2（1990）年県職員を退職し、県の花きセンターで手伝いすることになり、時間的な余裕も出てきたので、再び趣味のバラ栽培を開始し、県内のコンテストにも出品を始めた。しかし、それもつかの間で今度は自宅から 100 キロほど北西にある安代町（あしろまち 青森県と秋田県の県境）に新設された安代町花き開発センターに勤務することになり、またバラ栽培は中断しなければならなくなった。

この頃自宅のすぐわきに大きな道路が通ることになり、バラは全部取り除かなければならなくなり、どうしようかと迷ったが、幸い勤務場所より 2 キロほど離れた山あいの畑を貸してくれる人があったので、捨てきれないで迷っていたバラを移し、パイプハウスを作り、そこで栽培を始めた。

この年の秋からは県内のバラ展のみでなく、勸日本

ばら会の展示会にも見学に行くようになり、バラ作り熱は再び高まった。

ここは岩手県の北西部で標高 450 m 前後なので自然開花期は県の中心部より約 1 週間は遅れるので、県の春の展示会には自然状態では間に合わなかった。だがパイプハウスに 1 枚ビニールを被覆すれば、ちょうど開花に間にあうことも分かった。この程度の保温では日本ばら会の春の出品は困難だが、秋の展示会には出品できるようになった。そこで平成 8（1996）年以降は秋の全国展には毎年出品できるようになった。

趣味のバラ作りでも一度くらいは全国展で 1 位をとってみたいと思っていたが、平成 16（2004）年秋、広島県福山市で開催された勸日本ばら会全国大会では念願の会長賞をいただき、思い出の年となった。数日後、当時静岡大におられた大川先生からも「中国新聞」の記事を見たよとのお手紙もいただいた。

安代町での勤務は平成 15（2003）年に後継者も決まり、退職することになり、現在の花巻市に移り住むことになったので、バラもまた移動することにした。気



「手児奈（てこな）」第 15 回世界ばら会議バンクーバー大会ワールドローズショウで ベストローズ賞を受賞



第 12 回国際バラとガーデニングショウで大賞を受賞した「白秋」と筆者

表1 栽培関係受賞概要

受賞年	受賞品種	受賞内容
2004	コロラマ	第23回日本ばら会全国大会 会長賞（注1）
2006	手児奈（てこな）	第8回国際バラとガーデニングショウ 大賞（注2）
2009	手児奈（てこな）	第15回世界ばら会議バンクーバー大会 ワールドローズショウ ベストローズ賞（注3）
2010	白秋	第12回国際バラとガーデニングショウ 大賞

（注1）会長賞：大輪1花の1位に贈られる

（注2）大賞：各カテゴリーの最優秀賞を受賞した作品の中から選出

（注3）ベストローズ賞：各カテゴリーの1位を受賞した作品の中から選出

表2 国内でのバラ新品種コンクール実施状況

コンクールの名称	主催者	場 所
国際バラ新品種コンクール	勲日本ばら会東京都神代植物公園	東京都神代植物公園
ぎふ国際ローズコンテスト	花フェスタ記念公園	岐阜県花フェスタ記念公園
国際香りのばら新品種コンテスト	国営越後丘陵公園	新潟県国営越後丘陵公園

（注）岐阜県花フェスタ記念公園でのローズコンテストは一時休止していましたが今年（2011）から再開

象を調べると、ここは冬も割合日照量も多いので、春も工夫をすれば当方の開花より約1ヵ月早い日本ばら会の展示会にも間にあうのではなかろうかと考えた。パイプハウス二重被覆に水筒（すいふう）マルチ等も加えると無加温パイプハウスでも当方の開花期より約1ヵ月早い5月中旬に開花することが分かった。平成17（2005）年の第7回国際バラとガーデニングショウ（会場は西武ドーム）以降は毎年春秋出品し続けている。こうなると毎年仲間もふえ、春秋2回は仲間の顔を見たくなり出かけている。たかが趣味のバラ作りと思うが入ってみると奥は深い。育種の楽しみとは別な楽しみがある。

表1は栽培コンテストの主要な受賞記録である。

3. 育種への試み

平成8（1996）年に安代町で再度、趣味のバラ栽培を始めるにあたって思ったことは、栽培と同時に育種もどうかということである。

ガーデン用のバラは大部分は四季咲き性でありながら一般家庭では秋に咲いているバラを見ることはほとんどない。マレに咲いているのは‘クイーンエリザベス’ぐらいである。そこで、これからのバラの普及は、わが国では耐病性品種の育種ではないかと思った。しか

し世界には大きなナーセリー等で大勢のブリーダーが長年月、工夫を重ねて育種をしているのに、この歳になって始めてもどうなるものかとも思った。だが、反面バラは、播種してから5～6ヵ月で開花してくるし、栄養繁殖も容易なので、場合によっては先輩育種家にも思ったより早くに近づけるのではないかとも思い、「ダメモト」と思い、始めることにした。

平成10（1998）年には日本ばら会でも“育種の会”が発足したので、そちらにも顔を出すことにしている。大きな刺激となったのは、平成17（2005）年岐阜県で開催された「世界バラ育種シンポジウム」である。ここでは世界の主要なバラ種苗会社からの発表があったが、その大部分の会社の今後の方向は、耐病性と香りを中心になるだろうとのことであった。

私が最初に試みたのは、以前から病気に強いと聞いていたつるバラの‘ハンブルグフェニックス’である。これをオープンで採種し、これを播種したところ、予想以上のものが出現することが分かり、大変興味がわいた。そこでこの実生株のうちの有望と思われる1株に‘ゴールドマリー84’（F1）と交配したところ、12果ほど結実し、20粒ほどの種子が得られた。このうち発芽したものは15粒、この中で有望と思われる1株が後日岐阜県にある花フェスタ記念公園で銀賞をいただ

表3 育種関係で受賞した品種

受賞年	受賞品種	受賞内容
2007	ファミー	第7回ぎふ国際ローズコンテスト 銀賞 世界バラ会連合賞(注1) 勸日本ばら会賞(注2)
2008	南部ざくら	2008年度 JRC(日本ばら会国際新品種コンクール) 銅賞
2009	真宙(まそら)	第31回越後丘陵公園「国際香りのばらコンクール」金賞及び国土交通大臣賞(注3)
	ノースフレグランス	同上コンクール 長岡市長賞(注4)
2010	田毎の月(たごとのつき)	2010年度 JRC(日本ばら会国際新品種コンクール) 金賞
	ソーンレス GC ピンク	同上コンクール 銅賞
	アンゲリカ	第11回ぎふ国際ローズコンテスト 銅賞 Best FI賞(注5)

(注1) 世界バラ会連合賞：金2席に贈られる(該当なしの場合は銀1席に贈られる)

(注2) 勸日本ばら会賞：日本育種者の最高得点者へ贈られる

(注3) 国土交通大臣賞：金賞を受賞した品種のうち、最高得点を得た品種に贈られる

(注4) 長岡市長賞：一般来園者による人気投票1位の品種に贈られる

(注5) Best FI賞：フロリバンダ(FI)の最高得点者へ贈られる

くことになった‘ファミー’である。

‘ファミー’を最初に出品するときは大変迷った。自分では良いと思ってもどんな評価になるのかと心配しながら出品したが、客観的な評価が得られ、育種熱は

一層高まった。

日本では近年表2の3カ所でバラの新品種の国際コンクールを開催しているので、ここに出品し、評価が得られるのは幸いである。そして、各々のコンクール



「真宙(まそら)」 第31回越後丘陵公園「国際香りのばらコンクール」で金賞及び国土交通大臣賞を受賞



「ノースフレグランス」 第31回越後丘陵公園「国際香りのばらコンクール」で長岡市長賞を受賞

場所により、特徴のある配点がされているので、その品種の特徴を生かしてもらうこともできる。たとえば越後丘陵公園では香りを重視しているし、岐阜の花フェスタ記念公園では耐病性を重視している。

私のバラ育種の最終目標は花型や花の大きさ等は若干劣っても薬剤散布はほとんど無くとも一般家庭で秋まで咲き続けるバラと思っている。なお、できればつるバラ、修景用バラ（造園用）、グランドカバー用バラ等は刺の無いもの、さらに欲を云えば香りもほしいと思っている。

これらを併せ持った品種となると、私の育種ごときではどうにもならないが、「継続は力なり」で続けてみたいと思っている。

バラの育種を始めようと思った頃、もうすでにこんなに多くの品種が紹介されているので、もう手をかける余地はないのかなとも思ったが、いざ手をかけてみると、まだまだ欠けている谷間もたくさんある。

前述の‘ファミリー’のように、極小規模でも実用品種も生まれることがあるので、この歳（80歳）になっても止められない。時には神が導いてくれたのではないかと思うようなこともある。



「田毎の月(たごとのつき)」 2010年度 JRC(日本ばら会国際新品種コンクール)で金賞を受賞

是非若い人たちにはバラにも挑戦していただきたいものである。表3は目標の品種とはまだ遠いが、とりあえず受賞した品種の紹介である。